

カネミ油症 母子の苦悩描く

13日、水俣市で上映会 救済求める被害者なお

1968年に西日本一帯で被害が発覚した食品公害「カネミ油症」のドキュメンタリー映画「母と子の絆〜カネミ油症の真実」の上映会が13日午後2時から、水俣市南福寺のエコネットみなみで開かれる。水俣病と同様、救済を求める未認定患者が今も多いことなど類似点のある油症事件。稲塚秀孝監督は「カネミ油症をよく知るほど、水俣病と共通点のあるきょうだいのような事件と分かる。水俣の人たちにぜひ足を運んでほしい」と呼びかける。

監督「水俣病と共通点、来場を」

カネミ油症では「カネミ倉庫」(北九州市)製の米ぬかを手がけた稲塚監督は、上映油(ライスオイル)にダイオキシン類が混入し、健康被害が出た。福岡、長崎両県を中心に油が流通。発覚当初は約1万4千人が頭痛や手足の痛みを訴えたものの、認定患者は2023年度末で2377人(死者を含む)にとどまる。被害者の子や孫への影響の解明なども課題だ。

広島と長崎で原爆に遭った二重被爆者の故山口彌さん

カネミ油症では「カネミ倉庫」(北九州市)製の米ぬかを手がけた稲塚監督は、上映油(ライスオイル)にダイオキシン類が混入し、健康被害が出た。福岡、長崎両県を中心に油が流通。発覚当初は約1万4千人が頭痛や手足の痛みを訴えたものの、認定患者は2023年度末で2377人(死者を含む)にとどまる。被害者の子や孫への影響の解明なども課題だ。

先天的疾患「口唇口蓋裂」などの症状のある長男を生後4カ月で亡くした長崎県五島市の油症患者、岩村定子さんを中心に描く。へその緒のダイオキシン類の分析を研究機関に依頼するなど長男の患者3088。

認定を求め続ける岩村さんや、同様の被害を訴える母子たちの苦悩を追っている。昨年8月に完成、被害者の多い五島市や福岡市などで試写会を開き、全国各地の劇場で公開されている。県内での上映は初めて。

参加費は一般千円、大学生以下無料。問い合わせは、映画プロデューサーの藤原寿和さん(080(4868)7308)。

(古川剛光)



①岩村定子さんの長男のへその緒
②カネミライスオイルの一斗缶と1升瓶
(いずれも「母と子の絆〜カネミ油症の真実」製作委員会提供)



ドキュメンタリー映画
「母と子の絆〜カネミ
油症の真実」の水俣上
映会のチラシ